

# 浜松医科大学 国際交流後援会誌

第 17 号 (令和 3 年 11 月発行)



## ご 挨拶

浜松医科大学国際交流後援会 理事長 海野 直樹

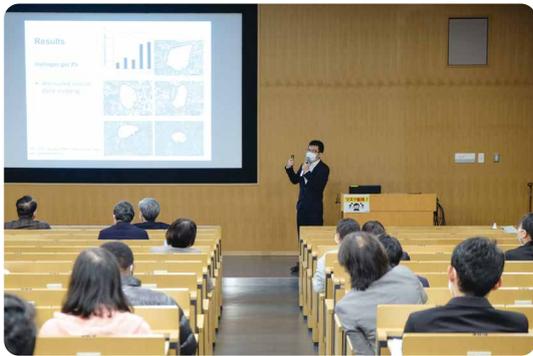
浜松医科大学国際交流後援会は「国際交流及びグローバル人材の育成」を支援する目的で設立されましたが、国際交流事業も以下に述べますように新型コロナウイルス (COVID-19) 感染の世界的蔓延により、大きな影響をうけました。そのような状況下で実施されました本後援会の令和 2 年度の活動実績をご報告いたします。まず外国人留学生への奨学事業として、令和 2 年度は私費外国人留学生 30 名に対し、留学生が勉学に専念できるよう合計 28,196 千円を奨学金として給付しました。新型コロナウイルス感染症の拡大で国際的な人の往来ができない状況が続き、国際交流事業についても多大な影響を受けています。幸いにも渡日することができた令和 2 年 10 月入学の新入留学生 4 名と母国に帰国中だった留学生 1 名については、新型コロナウイルス感染症対策に基づく入国時の 14 日間隔離待機に係る費用の一部として 421 千円を負担いたしました。短期留学として海外の学術

交流協定校から交換留学生を受入れ、日本で安心して勉学に打ち込めるよう支援を続ける予定でしたが、交換留学生の受入れはできませんでした。一方、グローバル人材育成事業として、本学学生の海外留学支援では、令和元年度末に新型コロナウイルス感染拡大防止措置前に海外臨床実習に行くことができた 2 名の学生に大学後援会からの支援金と併せて 160 千円を給付しました。また、予定していた留学がやむを得ず中止となり、支払済みの自己負担額が戻らなかった国際サービス・ラーニング参加費や旅行者へのキャンセル料の支援として 12 名の本学学生に対して、国際化推進センター教員が英語による患者プレゼンテーション訓練を実施した後に大学後援会からの支援金と併せて 765 千円の支援金を給付しました。

以上のように、COVID-19 のアウトブレイクのため、令和 2 年度の交流事業は大きな制約を

受けました。本稿執筆の令和3年8月末時もこれまでで最大規模の感染第5波が全国を襲っており、願わくば一日も早く感染が収束し、再びグローバルな交流が活発に再開されることを望みます。後援会の事業は学内・学外(団体・個人)の寄附金で成り立っており、令和2年度も多大のご寄付をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

< 留学生研究報告会 令和2年11月11日 >



< Med Read & Learn の実施風景 (令和2年7月~令和3年2月実施) >



< 外国人留学生等への日本語課外補講の実施風景 >



## 看護職の国際化と本学の未来図

浜松医科大学 臨床看護学講座 精神看護学  
教授 木戸 芳史

国際化推進センター運営委員を拝命しております、看護学科教員の木戸芳史と申します。長らく本委員会には看護学科の教員が参画しておりませんでした。2020年度よりメンバーに加えていただきました。

「委員になるくらいだから、豊富な国際経験があるのだろう」と思われるかもしれませんが、実は私には履歴書に書けるような国際経験がありません。高校・大学受験のためだけに英語を勉強し、日常で英語を聞く・話すような機会などまったくないまま大学を卒業し、極めてドメスティックに臨床活動をしてきました。そんなこんなで大学院に進学するまで国際性も英語力もゼロでしたが、大学院への進学にあたり「研究室の公用語は英語」という環境に直面し、慌ててオフシーズンに語学を目的とした短期留学（フィリピン）に行きました。ちなみに現在でも週1回、この語学学校が提供するオンライン英会話を続けています。

大学院進学後は、ノースカロライナ大学チャペルヒル校にて研究法に関する研修とコンサルテーションを受ける機会に恵まれるなど、色々な人や環境からのサポートの賜物ではありますが、最終的には修士論文・博士論文ともに国際誌にて出版し、国際学会での発表も幾度か経験することができました。



写真：ノースカロライナ大学チャペルヒル校にて（著者は左端）

### 日本人看護職の国際性と本学看護学科・看護学研究科の現状

日本の看護職（看護師、保健師、助産師）は、諸外国と比較して許可されている医療行為が大きく制限されているものの、その知識や技術については高く評価されています。そのため、欧米のRegistered Nurse資格を取得しての就業や、JICA等での派遣で開発途上国に貢献するなど、これまで多くの日本人看護職が国際的に活躍してきました。このように看護職のキャリア選択の1つとして国際的な活動が挙げられるのですが、本学の看護学科・看護学研究科は、他の看護系大学と比較すると短期留学等の国際的なプログラムが非常に少なく、現状では慶北大学校（韓国）との定期交流のみにとどまっています。この状況は本学学生の卒業・修了後のキャリア形成にとって望ましいことではなく、学生時代に国際的な経験を積む機会が提供できるよう、大学としての環境づくりが課題となっています。

そのため、看護学科では改訂される次期カリキュラムにおいて、選択必修科目「国際看護」と自由科目「国際看護演習」が設定されます。「国際看護」では、日本国内での外国人に対する看護も含め、看護職に求められる国際性を涵養するとともに、国外で活動している日本人看護職をゲストに迎え、諸外国における看護活動の実際を学習します。また「国際看護演習」では、実際に国外での演習を行えるよう協定先の拡大を含めて準備を進めているところです。

立ち遅れている看護学科・看護学研究科の国際化の歩みですが、皆さまには今後ともご指導ご鞭撻を賜れば幸いです。

## 浜松医科大学国際交流後援会役員等名簿

※敬称略

(令和3年10月現在)

	氏 名	職 名 等
名誉理事長	小 林 隆 夫	浜松医療センター 名誉院長
名 誉 理 事	市 山 新	浜松医科大学 名誉教授
〃	山 口 貴 司	山口ハート国際クリニック 院長

	氏 名	職 名 等
理 事 長	海 野 直 樹	浜松医療センター 院長 浜松医科大学特定教授
副 理 事 長	天 方 啓 二	天方産業株式会社 代表取締役
〃	滝 浪 實	一般社団法人浜松市医師会 会長
理 事	中 村 捷 二	株式会社サーラコーポレーション 相談役
〃	守 田 泰 男	遠州信用金庫 理事長
〃	岡 本 弘 美	国際ソロプチミスト浜松 会長
〃	平 田 晴 久	浜松医科大学後援会 会長
〃	青 木 善 治	社会福祉法人聖隷福祉事業団 理事長
〃	滝 浪 實	浜松医科大学同窓会松門会 会長
〃	山 下 寛 奈	浜松医科大学看護学科同窓会 会長
〃	山 口 智 之	医療法人社団泰誠会大脇産婦人科医院 理事長
〃	小 出 幸 夫	医療法人社団一穂会西山ウエルケア 施設長
顧 問	今 野 弘 之	浜松医科大学 学長
〃	山 本 清 二	浜松医科大学 理事 (教育・産学連携担当)
〃	佐 藤 誠	浜松医科大学 理事 (財務担当)・事務局長
〃	福 田 敦 夫	浜松医科大学 学長特別補佐 (国際化促進担当)
〃	木 戸 芳 史	浜松医科大学 臨床看護学講座 教授
〃	才 津 浩 智	浜松医科大学 国際化推進センター長
〃	山 下 美 保	浜松医科大学 国際化推進センター特任講師

# 令和2年度 事業報告

## 留学生支援事業

- ・博士課程大学院留学生への奨学金給付  
私費外国人留学生 30 名に奨学金給付

国名	人数
中国	17名
バングラデシュ	8名
ベトナム	4名
ルワンダ	1名
計	30名

- ・外国人留学生の入国時の対応

新型コロナウイルス流行後、令和2年10月入学の新入留学生4人と母国に一時帰国していた留学生1人の入国時の対応（渡日後14日間の隔離待機費用の一部を大学負担）を行った。

- ・新宿舎設置

民間企業が管理する、留学生・研修医用新宿舎「アプリコットヴィレッジⅢ」が令和3年3月大学敷地内に完成。国際化推進センターは留学生・研究生へ紹介し、入居希望者の申し込み手続き等の仲介を行った。

### < 外観 >

3階建て  
全12室（留学生用）  
間取り：1K（約29㎡）  
家具・家電付き



### < 内観 >



## ■ 国際交流事業

- ・ **留学生研究報告会開催**（令和2年11月11日）  
大学院留学生3年生10名による、研究報告会を実施した。



- ・ **Journal Club 2回実施**  
（令和2年5月18日、令和3年1月18日）  
光創起イノベーション研究拠点開催：外国人研究者の指導を受けながら、静岡大学・浜松医科大学の学生が英語論文を読解し、発表するセミナー

令和2年5月18日：  
医学科3年 2名参加

令和3年1月18日：  
医学科3年 1名、医学科5年 1名参加

- ・ **さくらサイエンスプログラム**（令和2年12月17日）  
インドネシアの高校生を静岡県に招聘する「さくらサイエンスプログラム」が新型コロナウイルス感染拡大により中止となったため、代替りのイベントとして「インドネシア共和国西ジャワ州友好交流3周年記念 静岡大学フェア」がオンラインで開催された。

< 事前に作成・提出した本学の英語紹介スライドを元に、西ジャワ州の職員が現地語で高校生らに説明 >



- ・ **国際交流のつどい**（令和3年3月）  
**（新型コロナウイルス感染拡大のため開催中止）**

「4年生・新入留  
学生のことば」を  
浜松医科大学国際  
交流講演会理事の  
方々、地域の方々、  
その他国際交流関  
係者へ送付した。

～4年生のことば～

大学院医学系研究科博士課程4年  
医化学講座  
Hazrat Belal

I would like to start my writing by thanking Hamamatsu University School of Medicine to give the opportunity to do my PhD. I am very grateful to be a part of this university.

Since 2017, it about four years already have been passed when I came to japan with my wife, now I am on the way to complete my doctoral graduation, but I can still remember my first day in Japan. I found peoples in here are too much friendly and cooperative and they find their best best to help a person who is in trouble.

Natural beauty of Japan is behind to express in word. Beauty of blossoming cherry "sakura" gives me the heavenly feeling. Mountain Fuji covered by falling snow, peering through the hills, always fascinated my mind with unknown heart filling. I closed up my...

～新入留学生のことば～

大学院医学系研究科博士課程1年  
放射線腫瘍学講座  
Li Wenxin

My name is Li Wenxin. I am in the first semester of my post-graduate year studying radiation oncology at the Hamamatsu University School of Medicine. I want to tell you a little bit about my background, interests, study, and life.

I come from a lively city in eastern China called Hangzhou. It is about 150 kilometers west of the city of Shanghai. I studied in a medical university for eight years. Then I have worked as a radiation oncology doctor for four years. During these four years working, I feel I need an academic improvement. So I came to the Hamamatsu

- ・ **留学生インタビュー**（令和3年3月）  
各国の在学留学生へ英語でインタビューを実施。撮影したインタビューは本学 Web 動画サイト「浜松医科大学オンデマンド」へ掲載した。



## ■ グローバル人材育成事業

### ・ 協定校等への学生の海外留学支援（海外留学支援金の給付）

留学内容	留学先	国名	人数
臨床実習	ハワイ大学	米国	1名
	シカゴ大学	米国	1名※
	オックスフォード大学	英国	1名※
計			2名

※同一人物

### ・ 協定校等への学生の海外留学支援（海外留学支援金の給付）

新型コロナウイルス流行のため、留学が中止となった学生への経費支援

※事前補講の英語プレゼンテーションを受講した学生、自己負担額を示す書類を提出した学生に限る

留学内容	留学先	国名	人数
臨床実習	ルブリン医科大学	ポーランド	4名
	ワルシャワ医科大学		2名
	ミシガン大学	米国	1名
IFMSA	Mauriziano hospital	イタリア	1名
	オーフス大学	デンマーク	1名
国際サービス・ラーニング	－	ポーランド	1名
	－	コスタリカ	2名
計			12名

### ・ 留学報告会

本学 Web 動画サイト「浜松医科大学オンデマンド」へ、学生が作成した留学報告スライドの発表動画を掲載した。

### ・ 患者プレゼンテーション訓練

交換留学予定学生を対象とした、英語による患者プレゼンテーション訓練を実施した。



< 令和 2 年 1 月 20 日開催 >



< 令和 2 年 2 月 12 日開催 >

### ・ テクニカルターム・リストの作成

学生の医学英語習得を向上させるため、学習すべき用語を明示する単語集を作成し、学生ポータル・大学 HP に掲載した。

### ・ Med Read & Learn の実施

国際化推進センターの教員が、主に医学科 3 年生（希望者のみ）を対象に少人数のケーススタディ形式で英語の教科書を通読する教育事業を実施した。





## 学術交流協定校紹介



浜松医科大学は、20 大学 10 カ国と大学間交流協定を結んでいます。(2021 年 10 月現在)  
今回はタイのタマサート大学チュラポーン国際医学部を紹介します。

タマサート大学は 1934 年 6 月 27 日に開校された、タイで 2 番目に古い大学です。開校当初の名称は、道徳・政治科学大学でした。開学の 2 年前にタイに初めて導入された民主主義を人々に教えたいと考えた、プリディ・パノミョン教授により設立されました。現在は 4 つのキャンパス、27 の学部を有し、271 のコース、305 の学習プログラムで学士課程、ディプロマプログラム、修士課程、博士課程の資格を取得することができます。

国際医学部は 2012 年 8 月 20 日に開催された第 8 回大学評議会において設立されました。教育の主要言語を英語とし、タイの芸術と文化の進化において重要な役割を果たしながら、医学と研究の分野の優れた専門家を教育することを目的としています。国際医学部はタマサート大学の中でも卓越した学部として指定されています。タマサート大学の規定に基づいて独立して運営され、大学機関としても認定されています。2013 年 5 月 8 日付けの王室文書において、チュラポーン女王殿下から「チュラポーン医科大学」(チュラポーン国際医学部) の名称を授与されました。

所在地：タイ国 パトゥムターニー県ランシット

学士プログラム：医学（英語プログラム）・歯科医師（バイリンガルプログラム）心臓血管・胸部技術（国際プログラム） 伝統的中国医学（国際プログラム）

大学院プログラム：統合医療、バイオクリニカル科学、皮膚科学、社会老年学

海外協定機関：27（日本の大学：長崎大学、九州保健福祉大学、山梨大学、名古屋市立大学、名古屋大学、浜松医科大学）

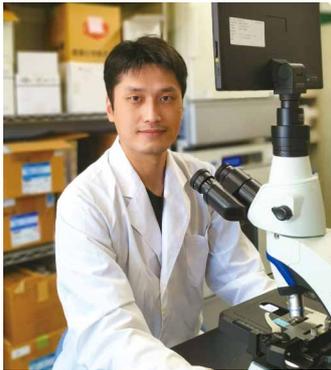
< キャンパス、学生 >



< Advanced Digital Stimulation Center、講義室 >



## 留学生の言葉



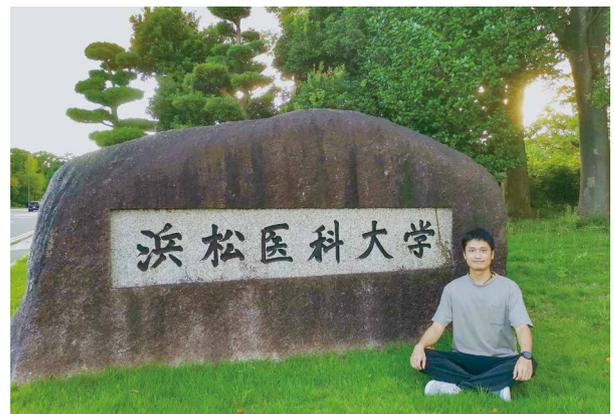
大学院医学系研究科博士課程3年  
細胞分子解剖学講座  
(中国出身) 張 恒森 Zhang Hengsen

2019年の秋、私は浜松医科大学で博士課程の勉強を始めるために、上海から名古屋までのフライトに乗りこみ、そして浜松市へ来ました。私は中国安徽省出身の張恒森と申します。私が中国医科大学第一病院で脳神経外科の修士課程を学んでいたとき、周りには日本に留学していた優秀な医師がたくさんおり、日本は世界でも有数の医療先進国であることもいろいろなところで知りました。そのようなことを踏まえて、日本に留学することを決めました。私の指導教官である王勇も浜松医科大学で博士号を取得していました。そのため、2019年に中国医科大学を卒業した後、幸運にも指導教官の推薦で浜松医科大学に来て瀬藤光利教授の研究室で研究を続けることになりました。

夏が過ぎて秋になり、季節の移り変わりとともに、博士課程の3年目を迎えました。浜松に来たばかりの頃は、まだ環境に慣れていませんでした。幸いなことに、学校の先生や友人の助けもあって、すぐに適応することができました。日本に来る前は、日本の多くの都市にとっても興味があり、留学期間を利用して日本の文化をもっと知り、景色を楽しみ、日本食を味わいたと思っていました。残念なことに、その後、新型コロナウイルスの世界的なパンデミックが発生し、日本も大きな被害を受けました。そのため、色々な旅行の予定もすべてキャンセルし、安全のため寮と研究室の間を行き来するだけになっています。ですから、留学生活は少し退屈なものになってしまいましたが、それによって研究プロジェクトの進行が滞ることがなかったのは良かったと思います。

私が所属する細胞分子解剖学講座では瀬藤光利教授、華表友暁准教授の指導のもと、留学生仲間の陳賓とパーキンソン病やアルツハイマー病などの神経変性疾患に関する研究を行っています。現在、小胞による細胞間コミュニケーションと神経変性疾患を結びつける分子メカニズムについて、興味深い発見がされています。今後、さらに調査・検証を行い、良い結果が得られることを期待しています。

また、奨学金支援をしてくださっている寄付者の方々にも感謝しています。奨学金支援のおかげで私たち留学生は生活の困難を乗り越え、人生における理想や価値を追求するために学業や研究に専念できています。卒業後の予定ですが、日本に残るのか、中国に戻るのか、実はまだ決めていません。しかし、将来どこに行っても、医学の分野で日中のコミュニケーションや交流を促進し、医学研究や人々の健康に貢献できるように努力していきたいと思います。また、新型コロナウイルスの流行が早く収まり、卒業前に京都の紅葉や北海道の雪を楽しみに訪れることができるように願っています。



## 過去卒業留学生からのお便り



バン格拉デシュ  
クムディニ女子医科大学 学長  
産婦人科長  
CIPRB 生殖・小児健康科 科長  
Prof. Dr. Md Abdul Halim

### A Journey from Bangladesh to Japan: Excellence in research and Life in Japan

I was a medical graduate from Bangladesh landed at Nagoya International Airport on 12th October 1991; first visit to Japan with an aspiration of doing research on Preeclampsia, a killer disease in pregnancy globally including Bangladesh with unknown etiology. After passing immigration, I met Professor Dr. Toshihiko Terao, chairman of OBGY, HUSM who was waiting with a placard of my name, “Dr. Abdul Halim, Bangladesh” in his hand at Nagoya Airport to receive me. I was surprised and his simplicity touched my heart, felt respectful to Japan & Japanese. I felt at home, as if my guardian and supervisor of my future study was with me.

With my PhD guide Prof. Toshihiko Terao, President HUSM and Mentor Prof Kanayama Naohiro on 3rd March 2008 while I was attending a conference in Japan.



2008年3月3日、学会参加時に寺尾俊彦元学長と指導教員の金山尚裕教授と共に。

I joined HUSM on 14th October 1991, was welcomed and introduced at the department of Obstetrics- Gynecology. I started a journey through learning and research in the university: laboratory, OPD, clinical wards and animal experiment house, being supported by a group of experts. I was fortunate to have Dr. Naohiro Kanayama, Assistant Prof at the department that time, as research mentor. We started research slow and steadily. We two spent most of the time together for new ideas and work through research and paper publications.

### バン格拉ディッシュから日本へ：秀逸な研究と日本の生活

1991年10月12日に名古屋空港に降り立った当時の私はバン格拉デシュの医学部卒業生でした。バン格拉デシュを含め世界的に周産期の死亡原因となっている病因不明の疾病「妊娠高血圧腎症」の研究をしたいという思いから初めて日本を訪れました。入国審査を過ぎると、浜松医科大学産婦人科学講座の長であった寺尾俊彦教授が、私の名前「Dr. Abdul Halim, Bangladesh」のプラカードを手にして、私を迎えてくれました。私は驚き、教授の気さくさに感動し、日本と日本人への敬意を感じました。私は、保護者であり今後の研究の指導教員と一緒にいてくれるような安心感を覚えました。

私は1991年10月14日に浜松医科大学に入学し、産婦人科学講座で歓迎、紹介されました。研究室、外来、臨床病棟、動物実験室等の専門施設、専門家の方々に支えられながら、大学での学修と研究の旅が始まりました。幸運なことに、当時講座の准教授であった金山尚裕先生に研究指導をしていただくことができました。私たちはゆっくりと着実に研究を始めました。私たち2人は、新たなアイデアの作成や、研究や論文発表のために、ほとんどの時間を一緒に過ごしました。

Beside research, the life was excellent being supported by other colleagues in HUSM, Sumimoto sensei for everyday life/fishing news, Asahina sensei for taking me watch soccer match (a supporter of Jubilo Iwata), Kobayashi Takao sensei for teaching me Ovarian onco-surgery. It would take endless words to express my gratitude and thankfulness to all supporting staff and professors of the department. My colleagues at HUSM made life most worthy and yielding. At the end of a satisfying worktime from 1991 to 1996 in HUSM with about 34 articles published, I received my PhD award in March 1996.

研究以外では、浜松医科大学の同僚に支えられ、素晴らしい生活を送ることができました。生活や釣りの情報を教えてくださった住本先生、サッカー観戦に連れて行ってくれた朝比奈先生（ジュビロ磐田のサポーターでした）、卵巣腫瘍手術を教えてくれた小林隆夫先生。私を支えてくれた職員や先生方への感謝の気持ちを表現するには、言葉が尽きません。浜松医科大学の同僚は私の人生を価値のある実り多きものにしてくれました。1991年から1996年の間に約34の論文を発表し、浜松医科大学で充実した時間を過ごした後、1996年3月に博士号を取得しました。

With the PhD award: me, Dr. She Liping (Junior PhD student from China), Dr. Naohiro Kanayama, other laboratory mates: 26th March 1996



1996年3月26日、博士号学位を持つ私。She Liping（中国からの博士課程学生）と金山尚裕先生と研究室の仲間と共に。

### Life in Japan: My experience

My wife and cute daughter joined me on February 1992, to complete a total experience of Japanese life at Hamamatsu. My daughter Urmi chan entered Hatsuoi Yochien of the locality, started her life in another span of happiness and learning Japanese culture. We as parent joined her in several events – like school sports, cultural events, hanabi, Hamamatsu matsuri, kite festival at Nakatajima beach. I also cannot forget shinnenkai, bounenkai and a number of sports and tour events organized by my daughter's school or HUSM or my colleagues of the department OBGY.

### 日本での生活：私の経験

1992年2月には妻と可愛い娘も加わり、浜松での日本の生活を満喫しました。私の娘のUrmiちゃんは、地元の初生幼稚園に入園し、新たな幸せな人生を歩み始め、日本の文化を学んでいきました。学校の運動会、文化祭、花火大会、浜松祭り、中田島での凧揚げなど、親として様々な行事に参加しました。また、娘の学校や浜松医科大学産婦人科学講座の同僚が主催した新年会や忘年会、スポーツイベントや旅行の数々も忘れられません。

An unforgettable experience in full blown autumn near Fuji mountain with my wife Panna san (right), little daughter Urmi chan (2nd from right) and me (middle) with other friends of HUSM.



秋真っ只中の富士山麓での思い出。妻のPanna（写真右）と小さい娘Urmiちゃん（右から2番目）と私（真ん中）と浜松医科大学での友人達と共に。

It is impossible to describe all those treasured memories but only can say: time at Japan was my best time with study and life enjoyment – which gave me strength to become an Obstetrician and Gynecologist, professor, and principal of a medical college besides being a researcher in subject of maternal and neonatal health. Most exciting part was that my daughter Dr. Jeenat Ferdous Urmi joined the same OBGY department to have a PhD and also my son in law Dr. Prottoy Hasan joined the department of cardiology HUSM for studying PhD. We from two generations are now PhD from HUSM Thank you so much to all concern, for support and being with us for a sweet memory.

これらの貴重な思い出を全て語り尽くすことはできませんが、ただ言えることは、日本で過ごした時間は学びと人生の楽しみが詰まった最高の時間だったということです。この経験が、母子保健分野の研究者としてだけでなく、産婦人科医、教授、そして医科大学の学長となる力となりました。最も嬉しかったことは、娘の Jeenat Ferdous Urmi が同じ浜松医科大学の産婦人科学講座で博士号を取得したことと、義理の息子である Prottoy Hasan が同じく浜松医科大学の内科学第三講座（循環器内科学分野）で博士号を取得したことです。私たちは2世代に渡って浜松医科大学で博士号を取得しています。

サポートしてくださった方々、一緒に良い思い出を作ってくださった方々、本当にありがとうございました。

Attending and presenting papers in same conference by both me and my daughter Dr. Jeenat Ferdous Urmi: Toyama 2008.



2008年富山にて。同じ学会に出席し、発表した私と娘の Jeenat Ferdous Urmi。



Enjoying Sushi, Udon, Tempura, etc. – my favorites in Japan with my mentor Prof Dr. Kanayama, Prof. Dr. Takao Kobayashi, Dr. Maehara (PhD Colleague), Dr. Suzuki (Soccer Fan friend). My Daughter and her supervisor Prof Dr. Itoh, my son in law Dr Prottoy Hasan.



金山尚裕先生、小林隆夫先生、前原先生（博士課程の同僚）、鈴木先生（サッカーファン友達）、私の娘、娘の指導教員伊東先生、義理の息子 Prottoy Hasan と共に。私の大好物の寿司やうどん等を食べて楽しみました。

### My position and work in Bangladesh

After return to Bangladesh, I have been working as obstetrician and gynecologist in various medical colleges in Bangladesh. Since 2011, I am working as Principal of Kumudini Women's Medical College, Bangladesh that deals 155 students per year to study undergraduate courses in medicine (MBBS) and dentistry (BDS). I also work as an obstetrician-gynecologist and Head of OBGY department.

In addition, I work in one research based organization (CIPRB) to conduct researches and programs in maternal, neonatal and reproductive health across the country. I also work with the government, and UN organizations for development of national policy and strategies in reproductive and child health.

### Bangladeshでの私の役職と仕事

Bangladeshに帰国後は様々な医科大学で産婦人科医として勤務しました。2011年からは医学 (MBBS) と歯学 (BDS) の学部課程学生を年間155人受け入れている Bangladesh のクムディニ女子医科大学の学長を務めています。また、産婦人科医としても働いており、産婦人科の科長も務めています。

また、研究機関 Centre for Injury Prevention and Research (CIPRB) に所属し、国内の母子保健に関する研究やプログラムを実施しています。政府や国連機関とも協力して、生殖と子どもの健康に関する国家政策や方策の発展に尽力しています。

1050 bedded hospital established since 1944 and Kumudini Women's Medical College established in 2000: where I am currently working.



1944年に設立された1050床の病院と、2000年に設立されたクムディニ女子医科大学(現在私が勤めているところ)です。

# 国際交流概況

## 外国人留学生数

令和元年度（2019年10月現在）

国名	大学院		研究生等	計
	国費	私費		
Bangladesh	2	9	1	12
中国		13	2	15
ベトナム		5		5
インド		2		2
タイ			1	1
ルワンダ		1		1
計	2	30	4	36

令和2年度（2020年10月現在）

国名	大学院		研究生等	計
	国費	私費		
Bangladesh	3	9		12
中国		16	1	17
ベトナム		4		4
インド		1		1
タイ			1	1
ルワンダ		2		2
計	3	32	2	37

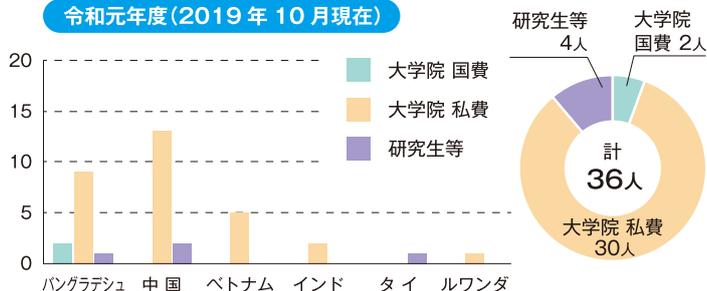
令和3年度（2021年10月現在）

国名	大学院		研究生等	計
	国費	私費		
Bangladesh	5	3	2	10
中国		18	1	19
ベトナム		5		5
インド		1		1
タイ			1	1
ルワンダ		2		2
計	5	29	4	38

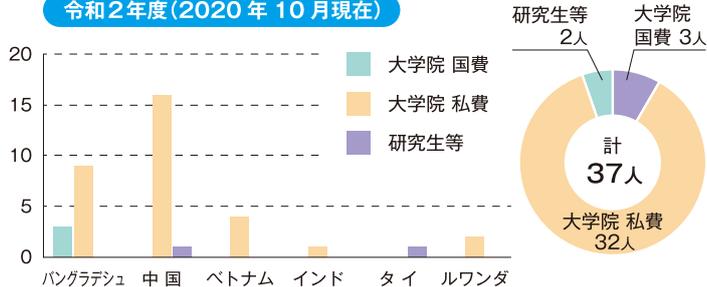
## 協定校等からの交換留学生

国名	R元年度	R2年度	R3年度
ブルガリア	1		
カナダ			
中国	2		
クロアチア	1		
フィンランド			
フランス			
ドイツ	2		
インドネシア	1		
イタリア			
マルタ			
ノルウェー			
オマーン			
ポーランド	8		
韓国	4		
ロシア	1		
スウェーデン	1		
スイス			
タイ	6		
イギリス			
アメリカ			
合計	27	0	0

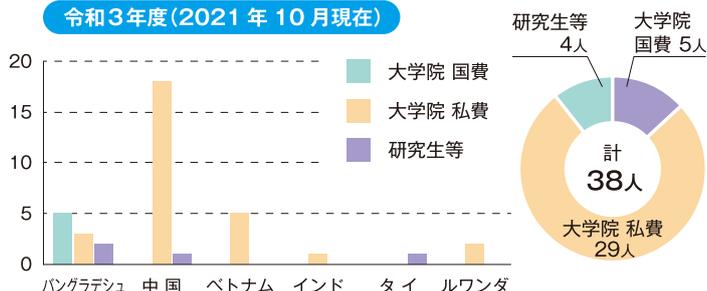
令和元年度（2019年10月現在）



令和2年度（2020年10月現在）



令和3年度（2021年10月現在）



## 協定校等への交換留学生

国名	R元年度	R2年度	R3年度
ブルガリア			
カナダ			
中国	2		
クロアチア			
フィンランド			
フランス			
ドイツ*1	1		
インドネシア			
イタリア	1		
マルタ	1		
ノルウェー			
オマーン			
ポーランド	6		
韓国			
ロシア			
スウェーデン			
スイス			
タイ			
イギリス*1	2	1	
アメリカ*2	5	2	
合計	18	3	0

\*1 イギリス留学生は、医学教育振興財団からの支援  
 \*2 サマーワークショップも含む  
 (注) サマーワークショップは実施年度、それ以外の留学は単位認定した年度で計上した